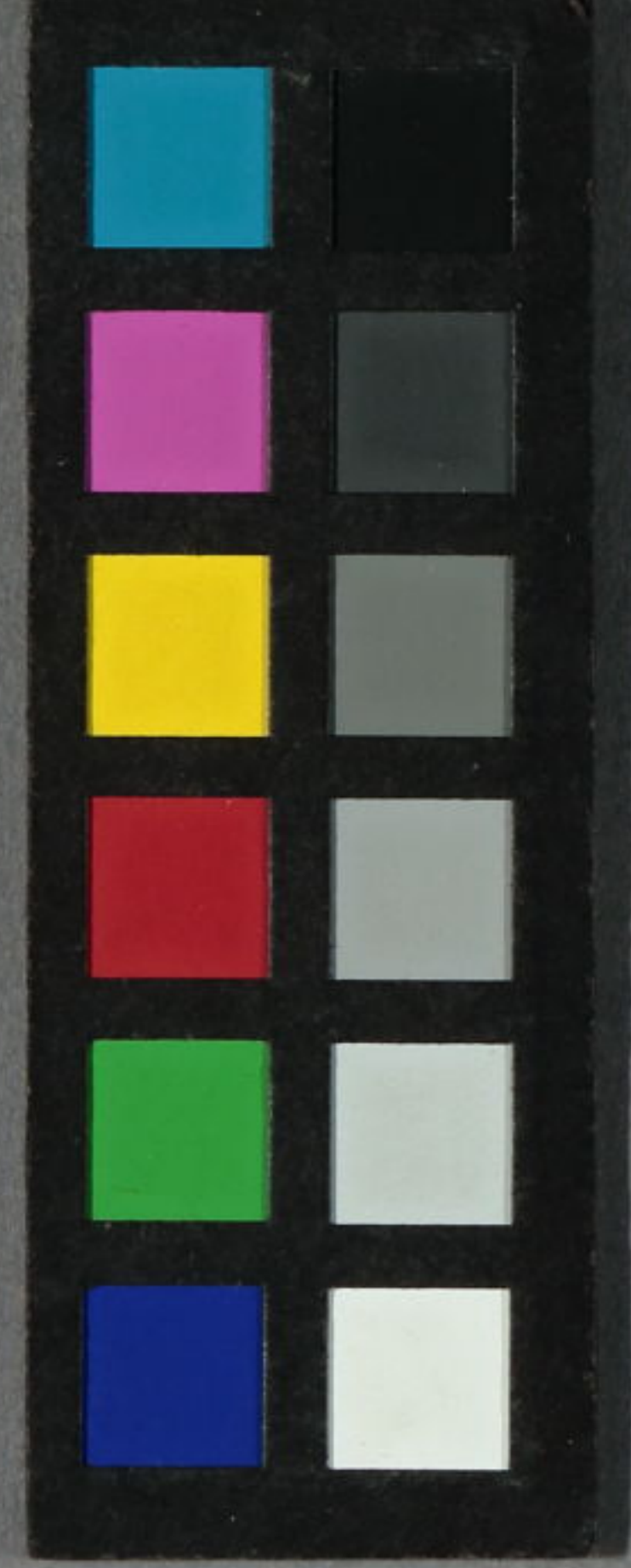


西洋道中膝栗毛

十編
上



Bancopulgarpi
萬國航海

西洋道中

膝栗毛拾編

萬笑閣梓

一蕙齋芳幾狂筆

假名垣魯文戲著



本
松
壽
堂

本
松
壽
堂

古ヨリ戲作者ナルモノ有テ妄語

中ノ妄說ヲ編出シ贅書中ノ

贅冊ヲ上梓ス寸モ其世ニ効ナキ

而已ナラズ隨テ童蒙ヲ欺クニ至ル斯

ク文明ノ世ニ至ルト雖モ未ク其類少

カラズ豈歎カザル可シ哉獨リ我カ友

魯子此時ニ當リテ一朝五大洲ヲ
夢遊シ所謂世界ノ名山大川各
國ノ風土氣候及ヒ其佗奇觀壯
覽ト稱スルモノ記シテ數篇トナス其趣
其文戲書ニ属スト雖モ童蒙婦女
ヲシテ畧其地名事情ヲ知ラシメ際

ヲ其方位里程ヲ知ラシム是レ世
間ノ妄說寓言ノ書ト今日ノ論ニア
ラズ少シク世ニ效アルニ近アリテ彼ノ
一九七章ノ戲書ニ優ルヤ遠シ姤テ
知ル魯子ハ魯子ニアラザルヲ請フ此
編ヲ閱スルモノ世間ノ合卷ト稱スル

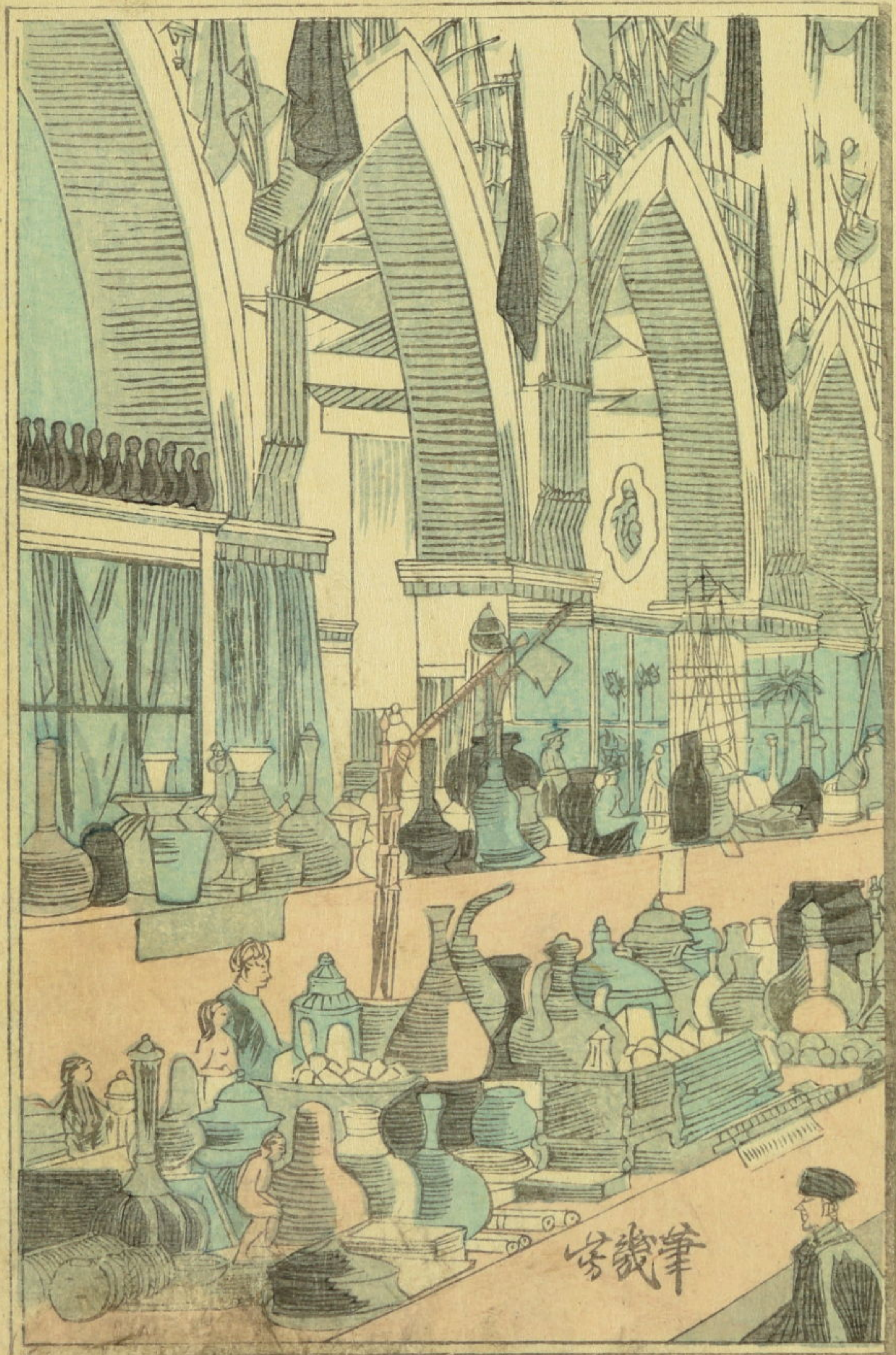
寓説ノ編ト同視スルナクンバ
院セ

ザルニ勝ラン歟

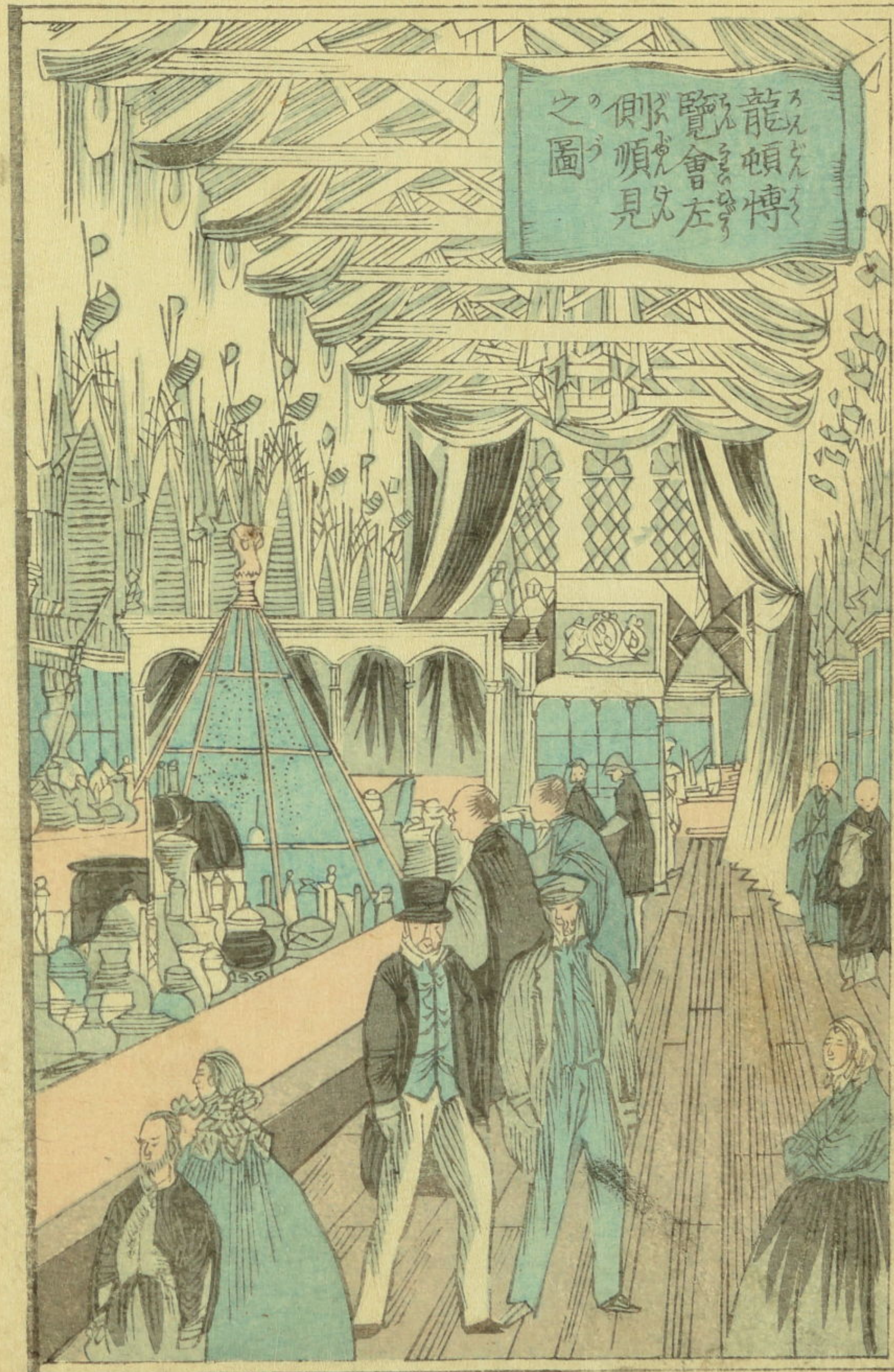
于時幸未仲殊

友人星一序
★





筆幾字



龍頓博覽會左側順見之圖

五羊東毛十上

未十月中旬方

右袖界中村座公方



中村座

中村座

前書

菅原傳經集寶鑑 大序方

切書

弥三郎後 在多方 西澤藤栗七上下



本一葉家 宗一葉家



でんち三吉 歌上村 新元松

三味せり 新本 獅太夫

若人松丸 助屋 助屋

三味せり 新本 伊太夫

三果せり 新本 伊太夫

千鶴茶屋大寺可吉日

右及左登

市川九藏

在言作者 松崎新佐

在言 並木五郎市

附 西山 柳三郎

取 木場 寿佐

頭 取 木場 寿佐

西洋膝栗毛茅拾編後序
當編也世界第一滑稽稗史の駿足也。一鞭千里の大評判。内地の看官勿論横濱築地小在留の外客競い購ひ求め寸暇も字ひ讀まざるは。既ニ當時尾州名古屋古袖町の戲場小於。是を脚色て人気を引く。此膝栗毛の驥尾小附す。目的の當利を覘ふが為あり。かきむ魯文先生の雷名交際の各

國小東。目今佛國の馬曲師スリエある。個曲馬興行の告條及び自己の傳記。旅中の紀行。あんなの倭解を乞へるも又膝栗毛の餘澤は。所謂馬の馬連の因縁やあらん。や麼先生の編を成や。諺云ぶつり書。再稿を省く。是をん許すの著述に追。筆硯繁雜止を得ぬ。杜撰廣漏も少。神。頗才筆力江湖上の

あれたぬふあるのい遅いと。引込思案が因循姑息二十
振袖に十河田素統二十筆六十。遅速を輪ひて学
ぶが專一論語より中ぶの痛落知らざる一ははつら
あふだり。麻痺ぜんんと禽獸扱ひひこつたを咬イ
た風あきたまらむらむらふ金。何ともは文とわしの便
宜。航海きたふたうらう。強ひ郎北八二人りの若いカ
イロの機中をむきこめくも車する痛く痛ふた
わ。その夜海泊舎小枕をむき。うくうあはくあ
わ。

あせしが次の日もいそいそ去らむ。初く救目をし
あばつ。院舎の機舎ふくも航海先ふあはれバ
海泊小をいそ治療を二時り痛く金快きせん
あはれ。廣統が指揮より通次郎ハ旅者の主人を
たのま。番地の病院は兩個を舉ふらあせつ、
送りあはれ。由をうき一箇を借受。通次郎上等の
医の診察をむき。人と被知小病居けり

○作者曰歐羅巴諸國の病院小病者入院の規則

及び除附の事どりの西洋事情その余の就法
書小巨細々もむあふ新書せむ被書冊を統て
後け戲編を一覽しめる佳典小入條多うに
○神代那多まのあふ病院中の仕切る下名の條處あふをそと並べ
通流所とて名をのめしつゝの商賣とての青二毛とてをいせ入るやま
を七八分たててる所のあふをふつたててあふとてあふとてあふと
異人のにじつをまつるあふのむにたててあふとてあふとてあふと
ひぬあふとてあふの通どうだ子ぬあふあふとてあふとてあふと
あふとてあふとてあふとてあふとてあふとてあふとてあふとて
がでげえあふとてあふとてあふとてあふとてあふとてあふとて
づらとてあふとてあふとてあふとてあふとてあふとてあふとて

わ
からあだんぐのそ人のが身小深くとて入らむと通
さん後生だうらあふとてあふとてあふとてあふとてあふとて
通あふとてあふとてあふとてあふとてあふとてあふとてあふとて
とてあふとてあふとてあふとてあふとてあふとてあふとてあふとて
先まが珍をさるの十字うらだといふあふとてあふとてあふとて
辛抱はるがうあふとてあふとてあふとてあふとてあふとてあふとて
時目小居りやあふとてあふとてあふとてあふとてあふとてあふとて
やア南海からのわあふとてあふとてあふとてあふとてあふとてあふとて



弥次

北八



商吉

通次

だらうけまど知らぬ他國のあまひね人セ北「そこが前
 故なりやうむらがううういふたふのナアイタム孫「あんど
 ねんりやうむらがううういふたふのナアイタム孫「あんど
 人参具足あるをとりつぜ通「北さんの片膝の初編
 うらの通う若者あつて若癖あつての膝うやうう
 十字だらうかつてうううなるがういサ北「エモシ一俵は病
 院の大先生い何処の必の函者ッやうだ通「そうサ
 僕も明細やアきうねくた「か昇隆の「ボシ先

生の一妻才子で「シヤボシ」とういふ人ごそうサ孫「アそ
 んあら活村田之助の足と新ッたアノ横濱お番ッド
 クトルの才子だ子通「そうサ余役切者の先生だそうサ
 北「なんごとエハボシの才子あらうアかるのいッや
 せう通さんいッやアおふ梅者やうねんた
 せんトあつたふあどろのうううとあつて通「とまサあせ「ボシの
 才子やアかまね人といふのでエあつたさうである
 のう子北「そまどだッてあの人からうううとらたさう

えうがんびやうと云 新て「シヤボン」ハ通に那がさん切あてま洋
やうあさんせうあり 彼を中とひたるをうらやうて
シヤケン○ユイ○スピーキ○トウ
○ロウ あんぢのいざうまことと云 通「エ○リットル」といふことあり エン
のうまことと云ふかたのふこと
スル○ミ せうのいざうまことと云 通「エ○リットル」といふことあり エン
あてうらへ應接して治の病者の方へゆく係に人日本
連中 おあうらむと云ふから後掛合だ子通さん彼奴が
なんといやうた子 通「何サ君のいれを」かからあてと
ろが彼からたのうと云ふいかなけかうやうと云ふと云ふたり

水菜と云ふ草なら一日二日の内やア愈々ぐわらん
のいぢと云ふと云ふ草イの小金体療毒の係イ性ぐら
はるむらゝ疵へ毒があつてさう痛さる一倍強イが
どろ骨をおつて療治とて一刻もをやく愈々
やうといやうたのサ 北「何だ」エと云ふらゝの療毒が係ト
ぬらまやアがたと云へるもあつてもぬらまやぐ療毒が
係のいづと云ふらゝ支便毒をサオのと云ふ端やうて
毎日お家の石版を上り下りをあたり牛肉や豚肉を

通次

北八



弥次

ニヤル



食くつととろくふつきらせたがむ楊梅瘡ようばいそうが類るいふ死し
 出でしたのサそれむめりでも移うつ入い麻病まびょうと痔ぢといんきん
 だむぐちあんげんよあつとあつちと愈あやふやうつち
 があつちのとぐあんずふりうあうつたのを本所の大幸だいしやく
 散さんと山帰来さんきらいを用ひて追おッ下くだしる揚句あげく小阿蘭陀せうあらんたの
 シイボルトとろあろやりトとろいふ人の調製ていせいたホニニス
 とのふつまろを一廻ひとめぐりり用ひたのど大膝癰てんげいの種切たねぎレ
 をした本き地ぢ無垢むくの色男いろおとこが自惚うねがほいちつとむめりある

かゝる人々が癡言といふやア、さういふ人も
けらうんやども移るやうだ、^近そうさせてみるぢやアね
とおつてゐるならう、^{あつめ}さういふ目八のゝでおらん
ちの妻人目々として、^{おしやう}年中^{だん}形^い色の^{あそ}氣^ぎ常^{じょう}ろ
の^あま^{めん}が^ある^あの^いけ^だを^ある^あやうで^あて^あを^あを^あ
形^あ間^ま人^{にん}形^{がた}の^いけ^だを^ある^あやうで^あて^あを^あ
さると^あ壺^{つぼ}の^いけ^だを^ある^あやうで^あて^あを^あ
シ耳^{みみ}だ^あと^あ青^{あお}を^ある^あやうで^あて^あを^あ
が^あの^あも^あも^あ癡^{あほう}ッ^あか^あれ^あ西^あ路^あが^あひ^あや^あだ^あと^あい^あぢやア

自己だらう年のいかに移るといふら知つてゐるといふ
女郎も吉原の仲と町張から伏見町西河岸にいふ
小町もどき新町二丁目の局舗まで買ひ込こき
場所の根津板橋小塚大千住小新宿の上下ヨ小
店へ登り世のひと移るもふより込こき繕で買
といふ秘傳までいふといふ川をらと花お様や
藩屋小え若いのららん坂から橋むつととり
越し一足とび小川橋神奈川花が谷から橋渡

の廊下で食らうかしたるまで便毒一ツ證あつ
ことのねへのいふおめだらうそれといふが身おん中
がゆから討妓小癪意があつてもいふ方のからだ
うけつとせ移るゝ平帯の行妓ふよるのだねエ
通さん 通自分であつたらう遠つゝあつたらうが「シヤ
ボシ」が若小癪意があつといふなんごヨ「北」そうだ
らうく、跡はさんごうく癪意の移る自體をでた
めへ舊年おのらと一履と小塚系の若松一遊具ふ

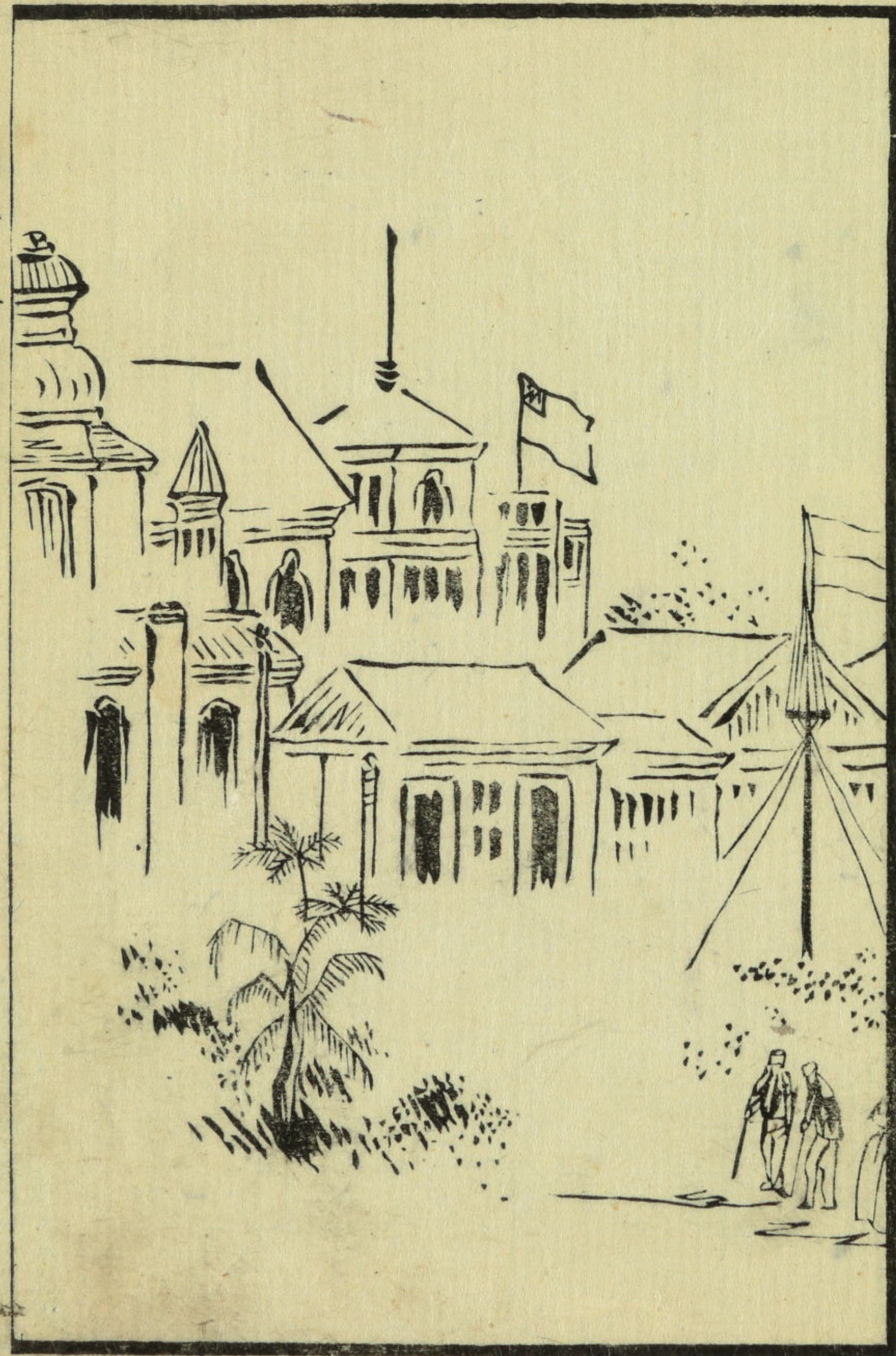
いたぶるん弥次さんの合股ぐらゐやアとちの
弥次さん男ぶらゐと志保ぐらゐやア皆
かを笑せて面白い人でスが床いふツツから鼻イ
口をふりよるあぐ持ッて来るのふあひとつた
とぬじこぜ他の一寸どが身の一戸とやらで自惚と
寝まのね人のいありやア志保ヨ「なぐらゐる
まゝぶらゐるこゝろ世る一ツ体の附合でて人の
やうふれがなを懼ッておちやア「ボンでも」シヤ

ボンでもふつとらめ人「あやめお世話なと
かしげあらうぐあらうぐ女ふらゐるのちか
めよりよるなだヨ「アハハハハ」イヤうぬづれとか
合併あらや療治もあねがらみふあるならう通
これサ「病人同士のかはひの所習かッて人のか
らうとやらと余り色なきあはれなる子 高
さん色氣あつても寝まがあつてゐるから好
でございませう北「あだとは雛めあつて慕ふやアね

カイロ
小病院
外面構
の圖



一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十



引ッ込シきけつるも 南ナニあるまゝぢやアねへとエから
だも利うねるゝ威張と青病人の肩役ヅッ 孫ヲッ
ト高公勅弁さッシ療ふつける某いねから 通アッ
むおつけるの地はぢやア北さんぐむるのサ 北アおサ
あおサかき孫と還根いそじろくまろ 孫先それ
すでんかきゞさるゝ 南まづ論判いこもぎりか子 通一
南公るらいいろくまろいあかき孫人 北病めん
ぢながら一首うかんダ

自惚と癪ともの海さ文らふ
中もあかき孫い立消
あまのいどうだ披様をき孫エ

中庸の中人わろくバ双方へ

かきろくろくぬ扱ひもが那

後い知ひお孫る病人のいそもはさくくねこ
たりろくまろの切驗たちちおあらのまねるん
地あるあぞ等しくよろこび勇むねからけ病院の

